

●キックオフイベント（2024.9）

あなたが幸せな未来を描くために今日からできることは？

- ・ 明るく平穏な気持ちで過ごす
- ・ 笑顔
- ・ 生きていることを楽しむ
- ・ 心に余白
- ・ 安来の自然を大切にする
- ・ 自分が好きなことやりたいと思うことを好きなだけやる！
- ・ 安来をもっと知る！
- ・ 人と交わり縁を結ぶこと
- ・ “一緒”に楽しむ
- ・ 自分から求めてつながりをもつ（人、物、こと）

安来市のまちづくりのテーマとして「Well-Being（地域幸福度）」を取り入れることについて
どんな印象をお持ちですか？

【「とても良い」「まあ良い」の回答理由】

- ・ しあわせな人が増えるとよりよいまちになると思うから。
- ・ 一人一人の幸福度を高めることが自治体の使命になってくるのではと思うから。
- ・ 市民の気持ちを大切にしてもらえている感じがします
- ・ とても良い考え方だと思います。他地域から多くの方が幸福度を感じて入って来られるといいですね。

【「どちらともいえない」の回答理由】

- ・ 英語はどうか
- ・ 幸福、幸せというのは、とても大切だと思います。しかし、概念が広すぎて、ピンとこない。

●市民アンケート調査（2024.9-10）

	上位項目	下位項目
生活環境	・ ②②暮らしている地域では、身近に自然を感じることができる ・ ⑥自宅の近辺では、騒音に悩まされている（※） ・ ⑤自宅には、心地のいい居場所がある ・ ②③暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる ・ ①⑨私の暮らしている地域には、まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある ・ ①⑧暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい ・ ②①私の暮らしている地域には、自慢できる自然景観がある	・ ①⑤暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である ・ ①⑥私の暮らしている地域では、行政サービスのデジタル化が進んでいる ・ ①⑦私の暮らしている地域では、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい ・ ①④私の暮らしている地域では、飲食を楽しめる場所が充実している ・ ①⑧私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる ・ ①⑨私の暮らしている地域には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある
地域の人間関係	・ ①④私は、町内（集落）の人が困っていたら手助けをする ・ ①①私は、同じ町内（集落）に住む人たちを信頼している ・ ①⑤私は、この町内（集落）に対して愛着を持っている	・ ①⑧私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる ・ ①⑨私の暮らしている地域には、女性が活躍しやすい雰囲気がある ・ ①⑩私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある ・ ①⑦私は、見知らぬ他者であっても信頼する
自分らしい生き方	・ ①⑤将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい ・ ①③私は、精神的に健康な状態である ・ ①②私は、身体的に健康な状態である	・ ①⑨暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある ・ ①⑧私の暮らしている地域では、適切な収入を得るための機会がある ・ ①⑦私の暮らしている地域では、やりたい仕事を見つけやすい

●関係者ヒアリング（2025.1）

安来商工会議所（2025.1.31）

安来市の商工業における現状と課題

- ・ 付加価値の額が突出して高いが消費が弱い。安来で稼いだお金が安来の中で回っていない。消費の場をつくることが重要。
- ・ 人手不足、担い手不足。安来で働くことが大きなメリットになるような動きが必要。
- ・ 廃業する小売店が多い。事業を承継するにしてもメリット（税制優遇や利益につながる何か）がないか。
- ・ 足立美術館の一強では弱いと考えている。また、「足立美術館」「はがね」「どじょうすくい」という言葉はよく知られているが、これらが「安来」として認知されているか課題。
- ・ 安来の名産をつくることも有効な手段になる。安来の名産は何かと聞かれると、あるようでない。
- ・ 小売店だけでなく、宿泊施設や体験施設などがあるといい。商業施設はわざわざ安来に来ないと買えない施設があった方がよい。
- ・ 「安来」という言葉・キーワードをもっと知ってもらいたい。「国内初」「最初」「一番」などがあれば、認知のきっかけづくりになる。
- ・ 中海をもっと有効活用したい（ヨットなどのマリンスポーツ）。

(続き)

移住・定住について

- ・「安来はこんなまち」と知ってもらおうきっかけがないと移住・定住につながらない。観光で来てもらうのも良いが、実際に住んでもらう体験が良いのでは。大切なのは「気軽」「リーズナブル」。
- ・2拠点生活などでサービスとして滞在できないか。旧市内でも空き家がたくさんあるので、仮居住などで活用することもできるのでは。
- ・安来の人はおせっかいだけど面倒見の良い人が多い。近所づきあいを体験してもらうのはどうか。

安来市の産業振興を図る上で大切なこと、10年後の目指す姿

- ・安来商工会議所は70周年記念で「灯す」がテーマ。安来はかつて、問屋業ですごく栄えていた。過去の灯は消しちゃいけない、新しい火を灯していこうという意味。
- ・プロテリアルを中心とした鉄鋼業はなくなることはない。
- ・10年後は安来発のものが定着しているのが望ましい。産業サポートネットやすぎ（SSY）で補助事業をやっているが、仕組みはよいので、民間と一緒にもっと頑張ってもらう。
- ・空き家対策は行政課題だけでなく社会課題なので、ビジネスとして民間の知恵・協力が必要。

「オール安来」について

- ・自分が参加している感覚、主体的に取り組んでいるという感覚が重要。住民がまちづくりや新しい仕事に参加していると感じられるようになればオール安来も成功するのではないか。

安来市の観光のコンセプトや、力を入れていること

- ・ 観光客は50～60万人来ている。
- ・ 「やすけくやすぎ」は3年ほど前にホームページを変えたときから使用している。
- ・ プロモーションビデオは日本地域情報コンテンツ大賞動画部門で最優秀賞を受賞している。
- ・ 足立美術館の集客が突出して多い。月山富田城が日本100名城に選ばれたので力を入れていきたい。
- ・ バスの利用が増えている。ツアーで複数の観光地を巡ってもらうように旅行会社へお願いしている。個人のお客さんにも、観光地を巡ってもらうようにあっせんしている。
- ・ ホテルがあり、団体客宿泊があれば、人の流れもできて経済効果につながるのではないかな。
- ・ 個人の滞在時間を増やしていきたい。観光地を拠点としてレンタサイクルでの移動を促す仕掛けを検討中。

インバウンドの状況

- ・ 長期滞在できること、駅に近いことが求められている。ゲストハウス（十神と崔の2軒）の利用は多い。
- ・ 空き家等を活用し提供できないか。求めている人と提供する側のマッチングが難しい。
- ・ お寺などの日本建築が望まれることが多い。

(続き)

安来市の観光における課題や展望

- ・ いかにして安来市にお金を落としてもらうか。
- ・ 国内旅行のターゲット属性は、若い世代の女性を考えているが、引き込むため動きは作れていない。
- ・ 中海を使ったレジャー体験があったらいい。
- ・ 観光地の認知が進んでいない。
- ・ 飲食店の紹介に苦慮している。ホームページに特徴のある店などは随時掲載している。
- ・ ドジョウを食べられるところが少ない。
- ・ イチゴの食いつきは良い。

安来市のまちづくりを考える上で大切にすべきこと

- ・ 安来市は製造業と農業が中心。生業でやっている人が多い。
- ・ モノや施設で満足するだけでなく、人との接点で良い印象をもってもらうことが大切。
- ・ 切川開発によって、ビジネスマンも増えるかもしれない。

安来暮らしで大切にしていること

- まちのつながりや人間関係を大切にしている。お祭りの準備などで地域の人々と交流するなど。
- 日本の文化やマナーや安全を大切にしてほしい。
- 東京や京都の外国人が多い状況を見ていると、安来市での暮らしが良いと感じる。

若者の定住に必要なこと

- 起業を目指す人を募集する。ビジネスをやりたい人に向けてPRする。
- 地域の受け入れ態勢を整える。
- 仕事の提供。起業はハードルが高く支援が必要。
- 移住者の活動成果を見せる。
- 相談できる場所を増やす（商工会など）。
- 都会と田舎の中間でちょうどいいことをもっとPRする。

社会福祉活動を通して感じる現状と課題

- ・ ママ友をつくったほうがよいが、市外から来られた方はなかなか難しい。子育て講座など市の催しにもっと参加してもらいたい。
- ・ ファミリー・サポート・センターに来る人は子育てに熱心な人が多いが、困ったことや助けてほしいことなどがあっても自分から言い出せない人が多くなっている印象。
- ・ 0歳～就学前までは支援センターがあり充実しているが、小学生の遊び場や公園が少ない。近くの公園も遊具が使用禁止になっている。道の駅あらエッサに大きな遊具があるが、車がないといけない。
- ・ こども食堂は各地で開いている。一風亭、駅前の飲食店、交流センターなど。
- ・ 金芽米の配布は助かるという声を聞く。

子育て世代の移住を促進するために有効なこと

- ・ 新興住宅地の開発は若い世代や子育て世代も来るのではないか。松江・米子に勤務できるので立地的には良いと思う。
- ・ まちの活気があるといい。街灯が少なく夜道が暗いので、県外から来られた人は不安に思う。
- ・ こども時代にたくさんの経験ができる環境があるほうがよい。
- ・ 親子でくつろげる、お出かけができる環境がほしい。
- ・ 空き家が増えている。リノベーションして子育て世代向けにSNS発信してはどうか。郊外に住んで自由に子育てをしたいという人もいるので、上手に発信してほしい。
- ・ 安来のまちなかの買い物環境は不便に思わないが、広瀬や伯太の山間部は不便さがある。
- ・ 困ったときに使える制度など情報発信は分かりやすく伝えてほしい。

今後の安来市のまちづくりを考える上で大切にすべきこと

- ・ キーワードは「しあわせ」と「つながり」。人にやさしく・地域にやさしく・自然にやさしいまちづくり。そこから生まれるつながりを大切にして、幸せをつくっていく。
- ・ 地域づくりに大切なのは人と人とのつながり。人口が減るのは避けられない。人口維持にエネルギーを使うのは時間もお金もかかる。それよりも一つ一つの取組を通じたプチハッピーの実現、幸せづくりに取り組んでいる。買い物支援もそう、仕事をつくることもそう、比田米の認知度向上・ブランド化もそう。いろんな世代、いろんな方のいろんな想いを形にすることに力を入れている。
- ・ 普通に生活していたら相手が何を考えているかわからない。高齢者の困り事を若い人が簡単に解決してくれるかもしれない。困り事がみえる仕組みが必要では。
- ・ つながることを目的としたイベントを実施してはどうか。お茶を飲むだけでもいい。テーマやターゲットを変えながら少しずつやればいい。つながりがあれば色んな方面に広がっていく。
- ・ 行政だけでなく、民間の力、外の力を活用できるのもつながりがあってこそ。
- ・ 今あるもの、安来ブランドの深掘りをもっとすべき。アイデアは子どもたちが持っている。
- ・ それぞれの地域がビジョンを持つことが大事。まちづくりといって建物を作っても住んでいる人が幸せにならなければ意味がない。箱モノではなく人づくりが大事。
- ・ 中心部と周辺部は全然違う。山の上のまちづくり・むらづくりを市はどのような方向に進めたいのか。総合計画の中で示してもいいのではないか。

地域共生社会のあるべき姿

- 「地域が外国人を受け入れるべき」というつもりはない。学生がまず地域を理解することから。その上で、地域に根付いて暮らしていけることが必要。
- 市福祉課や市社協と相談し、地域住民のちょっとした困り事（ごみ出し、草取り、障子の張り替えなど）にボランティアで対応する仕組みを検討中。
- 「優しくしてもらったら、優しくしよう」というのが昔は普通だった。そうやって馴染んでいくもの。人と接する機会を大切にする。若者は特に。
- 福祉への理解を深める。困っている人を助けるだけが福祉ではない。社会がどうあるべきか、社会のありようを考えるということ。

今後の安来市のまちづくりを考える上で大切にすべきこと

- 共生社会
- ご縁
- 相互理解、認め合うということ、受容